

平成24年度第1回山梨県立文学館協議会会議録

1 日 時 平成24年12月7日 午後1時30分～午後4時30分

2 場 所 山梨県立文学館研修室

3 出席者 協議会委員：10名

・数野強・矢島孝浩・上名をさみ・濃野初美・向山文人・植松裕二
・渡辺久壽・上野美穂子・乙黒幸江・清水澄

事務局：近藤館長・高山副館長・小石川学芸幹・古屋総務課長

三澤資料情報課長・文学館担当者3名、指定管理者2名

教育委員会：岩波教育次長・高橋学術文化財課長・企画担当1名

4 会議に付した事案

(1) 平成23年度事業報告等について

(2) 平成24年度事業等について

(3) 文学館の基本理念（案）について

(4) 山師県立文学館関係者の行動規範の作成について

(5) 指定管理者の指定期間の満了に伴う諸手続きについて

(6) その他

5 議事の概要

(1) 平成23年度事業報告等について、(2) 平成24年度事業等について

議長：平成23年度活動報告、平成24年度活動予定についてご意見・ご質問等ありましたらよろしくお願ひしたい。

A委員：①国民文化祭向けチラシの表側に「芸術と文学を一緒に学びませんか？」とあるのだが、裏側は「美術と文学を同時に学べます」とある。文学は芸術に含まれると思うので裏側の「美術と文学を…」という方のうたい文句（キャッチフレーズ）を使用した方がより良いと思う。

②甲府駅と芸術の森公園を結ぶ無料シャトルバスは大変に良いと思う。是非来年もお願いしたい。

③作品の展示方法についてだがいつも年代を追って作品が展示されていることが多く、解りやすいのだがマンネリだと思う。別の魅力的な展示方法はないか。

④夏の特別展「フランダースの犬」についてだが、この特別展を見て初めてハッピーエンドで終わっている作品がある事に驚いた。知っている人は少ないのでないか。もっとみんなに知って貰いたい。この新しい発見をもっと前面に押し出して宣伝したら良かったのではないか。

⑤文学館で新県立図書館の本を返却出来るようにしてはどうか。新しい客層の獲得に繋がるのではないか。

事務局：①'チラシについては、芸術＝アートというイメージが強いと思うので、あえて芸術と文学を分けて考えたところである。

②'無料送迎バスについては、県民の皆様は文学館・美術館を近しいものとして感じて貰うために利用してくれたら幸いである。

③'展示の方法についてですが、歴史などでお馴染みのオーソドックスな「編年体」とい

う手法を用いている。もう一つに個人の情報をまとめて伝える「紀伝体」という展示方法もあるが、どちらの方が見易いとは一概には言えない。展示方法の工夫については、ご意見の一つとして検討していきたい。

④「フランダースの犬」については、やはり結末が変わっているという、すでに別作品であることから、著作権（翻案権）等の問題もあり別作品としての紹介もあるということで、今後の参考にしていきたい。

⑤県立図書館の本の返却については、今後、図書館とも検討していきたい。

B委員：①教育関係者として、文学館から外にうって出るとするのは、大変に良いことだと思う。石川啄木の等身大のパネルなんかは、子どもたちに解りやすく非常によい取り組みだと思う。直接文学館に来館出来ない人たちに対し、巡回展という形で、地域で開催できないか。

②新規事業の取り組みとしてのリーディングシアターについては、身体の成長も心の成長も全く違う小中高の発表がすべて一緒というのは少し乱暴すぎないか。

事務局：②リーディングシアターでの高校生の役割は、司会プラス模範朗読のみになっている。小中学生が、高校生のお兄さん、お姉さんの発表を心で感じ取ってくれたらきっとすてきな心の反応が現れると思っている。心の成長を助ける一つの起爆剤となってくれる。「何と出会うか」ということに可能性を感じている。

C委員：巡回展は、予算等の問題でなかなか難しいとは思いますが、実施できれば、甲府近郊の人ばかりでなく県内の人々が文学館の事業に参加できるすばらしい事業になると思うので、検討をお願いしたい。

D委員：リーディングシアターについてだが、県内で小中高一貫の事業というのは類を見ない新事業だと思い非常に期待している。開催について市町村の教育委員会に連絡をしているか。市町村教育委員会をもっと活用したらどうか。そうすれば県内の一大事業になる可能性があると思う。

事務局：リーディングシアターは新事業ということもあり、今年は手探りで事務を進めてきたところである。今後、事業方法や広報について、委員の意見を参考に検討していきたいと思う。今年の実験を活かし来年度以降に繋いでいきたい。

E委員：書庫見学についてだが、見学だけだと一度参加すると次も参加したいとは思わないのではないか。パフォーマンスの一つとして、貴重な資料はこういう保存方法をとっているんだとか、ラベル貼り体験等、何度参加しても同じ体験にならないような工夫をお願いしたい。

事務局：書庫に人が入るといことは、いろいろな菌等の侵入を許すことになるので開放と保存という、相反する事象が問題になってくるが、ご指摘のような工夫も検討したい。

F委員：来年の事業の文学館至宝展についてだが、「至宝」とは何かすぐにはパッと判らない。「誰の」とか「何時代の」とか入れると判りやすくなるのではないか。

事務局：特定の人物の作品だけに限らず、文学館に所蔵している貴重な資料すべてという意味の至宝である。また「よみがえる文豪の素顔」というサブタイトルを付けている。

G委員：国文祭について4月以降の予定が決まっていたら教えてもらいたい。

事務局：これからまだまだつめていかなければならないが、現状では別添資料のように開催する予定である。

H委員：文学館と図書館の違いという話がでていたが、文学館は、研究と資料の蒐集保存をする所である。近年の文学館の活動を拝見すると、開かれた文学館というイメージを持つようになってきた。

C委員：一言で言えば、図書館は「百貨店」、文学館は「専門店」であると思う。文学館の研究紀要は素晴らしいものである。学芸員もよく勉強している。利用者も増え、年々「ひらかれた文学館」という感じになってきた。限られた予算の中で、優先順位を付けなければならないと思う。研究と集客という比例しない数字につきまわられて大変だと思うが、頑張ってもらいたい。

I委員：①やはり文学館の肝は展示室だと思う。解説員の常駐を希望する。何も喋らずに帰る文学館より一言、二言お話して帰る文学館では、大きく印象が変わると思う。

②もっと若者への働きかけを考えて頂きたい。未来の文学者の育成、そこまでいかになくとも未来のお客様を育ててみてはいかがか。

事務局：①'解説員については、来館者のどこに重きを置くかということだと思う。皆が皆解説を希望している訳では無いと思っており、実際解説をしてうるさいとの苦情を頂いたこともある。ただし、事前に連絡していただければ協力員の解説ボランティアが解説をすることができる。企画展開催中は、担当学芸員によるギャラリートークも行っているのでも是非ご利用してもらいたい。ただし、学芸員も要請に応じ対応しているが、通常の学芸員としての業務も多忙を極めており、そのへんも考慮しなければならない。

②'若者向けというわけではないが、文学に造詣の深い人向けや、小中学生向けなどの解説（キャプション）を別にするなど方法などもあると思うので検討していきたい。

J委員：①なかなか館の事業を一般の人に広報することは難しいことだと思う。春は桜が綺麗だし、秋は紅葉が大変に綺麗な公園がある。ここをもっと前面に出し関連付けることによりマスコミ等に広報のアピールをしたらいかがか。

②文学館は山梨に関係する作家の作品は収集していると思うが、山梨を題材にした作品の収集はすすめているのか。

事務局：①'確かに広報は難しいが、記事にさせていただくことで興味を持って来館してもらえるように、たくさんのリリースを送付している。報道機関のみならず市町村の広報誌を含めさらに広報に力を入れていきたい。

②'作品の収集はしているところだが、量が膨大なことから全体を把握することは困難である。現在、収集した作品のデータをパソコンで検索できるように整理しているところであるので、整理が完了したのから順次公開していきたい。

(3) 文学館の基本理念（案）について

(4) 山梨県立文学館関係者の行動規範の作成について

(5) 指定管理者の指定期間の満了に伴う諸手続きについて

事務局から、原案の説明を行い、意見がある場合1月中旬までに文学館に連絡をしていただくこととなった。

以上